

# 基本施策評価シート

基本施策最終評価

B

基本施策通し番号 20

基本施策 公共交通手段の確保

構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	バス運行の充実	C
施策2	JR越美北線の利用促進	B

## 成果指標

指標	内容	平成32年度	平成29年度末実績	単位	平成29年度の成果の検証
大野市内バス乗客数	大野市内バスの年間乗客数	36,000	29,479	人	H28と比較し、255人の減となった。
広域路線バス乗客数	広域路線バスの年間乗客数	285,000	262,621	人	H28と比較し、3,833人の増となった。
越美北線の乗客数	越美北線の年間乗客数	347,000	339,640	人	H28と比較し、2,271人の増となった。

## 後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者や学生などの移動制約者の日常生活や観光客の移動手段として、公共交通は必要不可欠であり、現在「越前おおの地域公共交通総合連携計画」に基づき、広域バスの運行支援やJR越美北線の利用促進、市営バスやまちなか循環バス、乗合タクシーを運行している。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民ニーズに応じて効率的に運行し、市民の豊かな暮らしを支える持続可能な公共交通を実現する。</li> <li>JR越美北線の重要性、機能性、役割について「乗って残す」市民の意識の醸成、北陸新幹線の敦賀延伸が進められる中、鉄道をテーマとした魅力ある観光事業の展開を図る。</li> </ul>

## 社会情勢・市民ニーズの変化

- 少子化の進行に伴い、通学生徒の越美北線定期利用者や市内路線バスの通学利用者が減少している。
- 一方で高齢化が進行している中で運転免許自主返納者が増加しており、地域で暮らし続けるために公共交通の確保が必要となっているほか、停留所まで移動することが難しいという高齢者の声もある。

## 現在の「現状」と「課題」

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間では採算が合わず維持することが難しい現状である公共交通に行政が関与し、高齢者や学生などの移動制約者を中心とした日常生活の移動手段を確保している。</li> <li>JR越美北線についても、観光利用券「食べ歩き見て歩きマップ」の活用など、利用促進施策に取り組んでいる。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子化の進行に伴い、通学生徒の公共交通利用者が減少している。</li> <li>車を運転することができない高齢者（運転免許自主返納者を含む）に対応した、持続可能な公共交通を実現する必要がある。（参考）運転免許自主返納認定者数【累計】 H24:34人、H25:61人、H26:87人、H27:149人、H28:215人、H29:296人</li> </ul>

## 基本施策の「成果」

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>大野市内バス等の全体の乗客数は昨年度と比べ微減(255人の減)であったが、市内バス等のうちまちなか循環バスについては増加(2,194人の増)、広域路線バスについても増加(3,833人の増)であり、高齢者や学生などの移動制約者の日常生活の移動手段を維持することができた。</li> </ul>
----	--

## 改善点

- 市民が地域公共交通の重要性を認識し、乗って残す意識の醸成のため、今後も公共交通の周知を行う。
- 今年度において越美北線の利用促進として、車両ラッピングを行い、また観光振興の一環として車内広告にてイベントのPRを行う。
- 最寄駅がわからない、時刻表の見方がわからない等の声があったことから、H29から利用者本人が利用する停留所及びダイヤのみを記載した「マイ時刻表」作成のサービスを開始しており、マイ時刻表作成のPRを進めていく。
- 利用しやすい環境整備として、バス停留所の増設等について検討する。